

アパマンハムの小生にとってHF運用（特にローバンド）は必然的にATUの世話にならざるを得ません。筆者も、某OMから譲り受けたAH-2と最新機種のAH-4を所持し、固定（小汚いアパート）の屋根にはAH-2を、移動時にはAH-4と使い分けていますが、後者はともかくAH-2の方は仲々旨くいきません。調子の良い時もあるのですが、QSO中いきなりSWRが跳ね上がり交信不可と成るケースがたびたびありました。アースラインは建物の構造上問題無く、後はRFの制御回線への廻り込みです。まず手始めにジャンク店で買って来たパッチン（名前は知りませんが、マカロニの様で開いてから線にはさみ込みパッチンとロックする）を十数個いれましたが、気のせい良く成った位で、今度は15メートルバンドで度々起こる様になりました。後で知ったことですがパッチンは気休め程度の効果しか無いそうです。そこで一念発起、「臭い匂いは元から断たねば駄目」とばかり本格的なフィルターの製作を考えました。回路はローパスフィルター等で使われているT型で必然的に各ラインへの挿入と成ります。AH-2・AH-4の制御線は白（チューナーSTART端子）緑（チューナーKEY端子）赤（電源プラス）黒（電源マイナス）の4本が出ています、この白線と緑線にRFチョーク（2.5mH）を接続、中点をコンデンサー（0.05 μ F 30ボルト）でアースラインへ落とします。電源ラインの赤と黒線はチューナー動作の電流が流れる為、万一を考え小型トロイダルコア（特性不明ジャンク品）に極細ビニール線を30回巻きつけその両端をRFチョーク同様の処理とします、各4本の端末にチューナーからの同色の線を最短距離で繋ぎ、反対側にはリグからの線を繋ぎます、当初ブラックセットで組み上げたところ、各バンド共全く問題無く快適な運用が出来ましたので、整理して100円ショップで購入した食品保存用のプラスチックケースへ入れAH-2横に置いています。（対候性が心配）いずれはきちんとした防水金属ケースへの収納する予定です。あとは製作費用が安いのでリグの方にもつけてみたいと思っています。リグ側はアイコム以外のリグでも使用可能な様に汎用コントローラーも組み込み切り替えて使用します（回路は周知のごとく）。唯アイコム機へは特殊なコネクタ（4P）で繋いでいるので別途購入しなければなりません（アイコムへ問い合わせたら入手出来るそうです）ここでAH-2とAH-4の比較ですが対策前、以前AH-4を繋いで見たら全然問題は発生しませんでした。やはり新しいだけにそこらの対策は出来ているみたいです。又チューニングもAH-4の方がきめ細かく、各バンド毎SWRは相当低くなります。アンテナは小汚いアパートの屋根の片側から真中に立っているテレビアンテナ（今は使われていない）の上を通過しほぼ対角線上に降りた12M位のビニール線（一応触れる所は絶縁している）で、3.5~7メガは良く飛んでいる様ですがハイバンドは長過ぎるのか、送受共今一ですので、チューナー出力ヘリレーを入れ手元で切り替えて5M位のアンテナを別方向に張り、使いたいと思っています。なにとはともあれこの環境で微弱ながらもHFへ出られるのはオートチューナーのお陰と現代科学の進歩に感謝している今日この頃です。唯一欠点なのは家ではHF帯はノイズがS9以上と多く、交信が終わるとどっと疲れが出ます。（バリバリ・ザーザー）話は変わりますが、冬場21MHzは悪いと言われていますが、先般職場（4Fのビルベランダに「見たら笑っちゃう」自作V型ダイポールを上げ根気良くCQを連発すると短時間ながらも国内の遠い局からのコールバックがあり2月16日も北海道名寄市・小笠原南鳥島との交信が出来ました。いずれもS9と明瞭で、こちらは寒くて震えている時、小笠原は摂氏26度、Tシャツに半パンツ、名寄は積雪

1. 2メートル・気温マイナス4度とのことで、20分以内に亜熱帯と極寒の世界を味わった次第です。そうゆう訳で冬場の21は全く駄目では無く、「根気と運」で可能です。思えば釣りでは「鯉釣り」に似ています。湖を回遊している鯉は釣り場に来る機会はそう度々有りません。撒き餌と釣り糸をたらし、根気良く待っていると、100%は無理にしても釣れる可能性はあります。一時的にもコンディションが開ければ、よほど酷いアンテナでも無い限り交信可能ですから、240諸兄も暇な時、オデンを着に酒でもチビチビ舐めながら、CQ 21メーターを連呼してみませんか。(21. 205で良く出ています)

ページ余白を埋める為

J R 2 F V O

第1話

昨年8月末、仕事で富山へ行ったおり、「おわら風の盆」で有名な越中八尾へ寄りました。9月1～5日が本番、前夜祭とのことで石畳の駅前ステージからの「おわら」が遠く聞こえます。先ほどの雨でしっとり濡れた街並みは辻々のぼんぼりに照らされ、なんとも言えない雰囲気醸しだしています。突如、街の一角に胡弓で有名な〇〇美智子さんの出店コーナーを発見、筆者は大ファンです(超綺麗・超色っぽい)その時は不在でしたが、再び引き返すと彼女が居たのです。幾年かの思いを込め、話をさせて戴き万感胸に詰まって言葉にならずほとんど話は出来ませんでした。勿論CDは即買い求めました。その時恐る恐る渡した名刺(J R 2 F V Oと住所・電話番号)を見てか、正月に年賀状を戴き、感無量でした。年齢は不詳ですが、高校生の女の子が一人います。

第2話

「おひさし振り・・・」の言葉から始まった21MHzのQSOは、2月24日(日)多摩川の河川敷からです。当日は台風並の強風が吹き荒れ、看板落下等のニュースが流れていた日で、粗末な昼食を済ませ、調布の対岸、稲城市の多摩川河川敷へ移動運用に出かけました、いつもは10数台が駐車しているのですが、強風のせいか1台も居ません。ポールをタイヤベースに取り付け、自作「笑っちゃうアンテナ」を付け準備に掛かります。川を吹きすさぶ西風は強く、3.7MのV型エレメントは弓なりに反ってまるでインパラの角の様、4m位伸ばしたポールがタイヤベースを揺さぶり車がグラッと揺れます、幸いSWRは1.2前後で運用には支障が有りません。近隣数局と行き、沖縄県西春町・J J 1 A P X / 6・青柳OMのCQが強く入感、猛烈なパイルの中やっとの思いで繋いで戴き、その時の第一声が前述の言葉です。この局長さんとは縁が深く、最初はモバイル運用中で、その後沖縄へ行った時自宅に訪問してお土産に泡盛を戴きました。その日はコンディションが開けており、本人のシャックからJ J 1 S X AさんとQSOした記憶があります。ロケーション的には那覇市から車で40分位、東に太平洋を望み、南と西側は山に囲まれた海拔こそ低いものの、日本本土(ヤマト方面)は開けています。4エレ八木が10M位のタワーに上がっていますが、廻すこと無く全てのエリアと出来るそうです。話は戻って、河川敷では信号は強く9オーバーが長時間続きました。毎週日曜日、午後1時頃から21MHzと50MHzでCQを出しているそうで、240諸兄もワッチして見てください。26日多摩川河川敷はとても寒く、車中の運用でも震える位でしたが、沖縄県西春町は20度で、庭の桜が咲き始めているそうです・・・